

第5回

再臨待望聖会

日本の霊的覚醒 ユダヤ人の救い メシアの再臨



特別講師：セツ・ポステル（イスラエル聖書大学教授）

トマス・ダミアノス（イスラエル聖書大学教授）

講師・通訳：中川健一（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表）



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

無断複製・転載を禁じます

目次

「イサクに対する神の計画」	3
I. イサクに対する神の計画 – 過去	3
アブラハム契約（創世記 12：1～3）	3
A. 創 12：1 – 土地の約束	3
B. 創 12：2～3 – 子孫の約束	4
C. 創 12：2～3 – 祝福の約束：2つの部分	4
II. イサクに対する神の計画 – 現在	5
ローマ 11：1～2	5
ローマ 11：5～7	5
ローマ 11：11	5
ローマ 11：12	6
ローマ 11：15	6
ローマ 11：16～18	7
III. イサクに対する神の計画 – 未来	7
ローマ 11：22～24	7
ローマ 11：25	7
ローマ 11：26～27	8
結論	8
「イシュマエルに対する神の計画」	9
I. イシュマエルに対する神の計画 – 過去	9
イシュマエルに対する約束：昔から変わらない贖いの物語（創世記 16：1～16）	9
離別：昔から変わらない舞台裏の物語（創世記 21：1～10）	9
備え：昔から変わらない備えの物語（創世記 21：11～21）	9
以上の物語から学ぶ3つの重要な教訓	10
II. イシュマエルに対する神の計画 – 現在	10
ヨナ書に学ぶ衝撃的な教訓：神はアラブ人を愛しておられる！	10
二ネベと金の子牛事件に見る神のあわれみ	11
否定できない対応関係	11
これは何を意味するか	11
神はガザを愛しておられる	12

ヨナ書に学ぶショッキングな教訓：神はイスラエルにねたみを起こさせるためにアラブ人を救っている	12
Ⅲ. イシュマエルに対する神の計画 - 未来	13
イザヤ書にその答えを探る - 諸国民に対する宣託（イザヤ 13～23 章）	13
イザヤの幻：諸国民が礼拝のためにエルサレムに上ってくる	13
イザヤ書の政治的・霊的現実：諸国民がエルサレムに攻め上ってくる	13
イザヤが見た幻と、現在の政治的・霊的現実を踏まえて - 神のイシュマエルに対する計画とは何か	14
イザヤに見る 2 種類の「助言者」	14
神がイシュマエルの将来に持つておられる計画は何か（イザヤ 13～23 章）	14
ショッキングだが、本当に起こること	15
賛美	16

「イサクに対する神の計画」

過去、現在、未来

トマス・ダミアノス

I. イサクに対する神の計画 — 過去

アブラハム契約（創世記 12：1～3）

- これは、神が条件を付けることなく、アブラハムとその子孫イスラエルに対し、あなたを偉大な国民とすると誓った信仰の契約である。また神は、地上のすべての家族（民族）を、「アブラハムの子孫」、イエス・キリストによって祝福する（救う）ことも誓っている。
- イスラエル人とは、アブラハムの血筋を受け継ぐ子孫のことで、イサク、ヤコブの家系から出た人々である。神は、イスラエルを地の面（おもて）のすべての民のうちから選び、ご自分にとって特別な民とされた（申命 7：6）。
- 聖書は「イスラエル」という言葉を民族と土地の両方に使っている。聖書は、何百回にもわたって、「神はイスラエルの神である」「イスラエルの聖なる方」と繰り返し語っている。実際に、「イスラエル」と「ユダヤ人」という言葉は、旧約聖書で 2700 回以上、新約聖書で 80 回以上使われている。
- 聖書は、イスラエルとイスラエルの地について、かなりのスペースを割いて語っている。この事実から、イスラエルの民が神の計画の中で占める立場・役割を理解することが決定的に重要であるとわかる。

アブラハム契約（創世記 12：1～3）

「【主】はアブラムに仰せられた。『あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。』」

- ここにアブラハム契約が記されている。神はこの契約を非常に重視しておられる。神は、この契約をイサク、ヤコブと確認し、再確認し、更新された（創世記 13：14～17、15：1～21、17：1～11、22：15～19、26：2～5、28：13～17）。

アブラハム契約には 3 つの要素から成り、主な約束が 3 つ語られている（土地、子孫、祝福）。

A. 創 12：1 — 土地の約束

「【主】はアブラムに仰せられた。『あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたし

が示す地へ行きなさい』

- 土地の約束は、イスラエルが出エジプトの後（紀元前 1491 年）にイスラエルの地を占領することで、その成就が開始された。しかし、その完全な成就是「終末時代」を待たなければならない。

B. 創 12：2～3 — 子孫の約束

「そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。』

- アブラハムから一つの国民を生み出すという約束だが、当時アブラハムには子がなく、サライは不妊の女だった。
- ここで「子孫」という言葉が、アブラハムの特定の子孫、メシアを指して使われている。この「子孫」こそ、エバに約束されていた、蛇の頭を踏み砕く方である（創 3：15）。また、この「子孫」は「地上のすべての民族」に祝福をもたらす。
- この「子孫」はダビデの家系から生まれ、神が「彼の王国を確立させる」（2 サム 7：12）。パウロは、この「子孫」はメシアであるイエスを指していると解釈する（ガラ 3：16、19）。

C. 創 12：2～3 — 祝福の約束：2つの部分

「そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。』

1. アブラハムの子孫への祝福

- a. 土地と国民の約束を含む。
- b. 子孫に対するさらなる祝福（霊的祝福、創 17 章参照）
- c. 祝福と呪い：第 2 の祝福のために、神が安全保障をする。

2. アブラハムの子孫を通して全世界に届く祝福

- a. 創世記 1～11 章と「祝福」：この文脈では、「祝福」とは地上にエデンの園のような状態を回復すること（創 1～2 章参照）。
 - b. 霊的祝福：人類の霊的な回復（贖い）。メシアによって最終的に成就する。
 - c. 物理的祝福：人間の肉体と環境が墮落前の完全な状態に回復する（ロマ 8：18～23 参照）。
- アブラハムに対する神の約束は契約となり、両者の間で締結された（創 15 章）。これは無条件契約である。
 - この契約の履行義務を負うのは、神ご自身だけである。アブラハムは責任を負っていない。
 - この無条件契約の締結には、神ご自身の尊厳と神のご性質がかかっていた。この契約の約束を実

行する責任は、ただ神だけが負っておられる。

- この契約にある約束が実現するためにアブラハムやその子孫（イスラエル、ユダヤ民族）がすべきこと、できることは何もない。

II. イサクに対する神の計画 — 現在

ローマ 11：1～2

「すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなことはありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミン族の出身です。神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしまわれたのではありません。……」

- 多くの神学者が抱く問いは、「神はご自分の民（ユダヤ人）を退けてしまわれたのか」というものである（ローマ 11：1）。
- パウロはこの問いに対し、ローマ 11：1 で「ご自分の民を退けてしまわれたのではありません」ときっぱり言い切っている。
- パウロは、イエス・キリストの再臨まで、神がイスラエル全体を救うことはないとわかっていた。救われるのは、少数の残れる者（レムナント）だけである。ユダヤ人の大部分は、イエス・キリストを受け入れなかったからだ。
- このレムナントは、恵みの選びによる神の選民で、それ以外のイスラエルは目が閉ざされ、不信仰に陥った。しかし、神はご自分の民を捨て去られたわけではなかった。

ローマ 11：5～7

「それと同じように、今も、恵みの選びによって残された者がいます。もし恵みによるのであれば、もはや行いによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。では、どうなるのでしょうか。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたくなにされたのです」

- 不信仰に陥ったユダヤ人がつまずいたのは、倒れるため、永遠に失われるためだったのだろうか。
- 使徒パウロの答えは、断定的な「ノー」だった。

ローマ 11：11

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょう。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです」

- それでは、神がご自分の選民の大半を今日まで盲目にし、アブラハム契約の本当の意味、イエス・

キリストの真の福音を見えなくしているのはなぜか。

- パウロは同じ節で、その問いに答えている。不信仰なユダヤ人は、神が異邦人の中から多くの人を選び、ご自分の恩寵を注がれたと知ればねたみに駆られるだろう。このねたみは聖なるねたみであって、不信仰なユダヤ人は、それによって、選ばれた異邦人と同じ救いを求めるようになる。
- 神のご計画で驚くべき点は、神が、ユダヤ人たちの目から覆いを取り除き、神のひとり子、イエス・キリストの真の福音を示した後、ユダヤ人を通して全世界を祝福しようとしておられることにある。

ローマ 11 : 12

「もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう」

- パウロは、ユダヤ人が失敗して不信仰に陥ったことが異邦人の富になったのであれば、不信仰なユダヤ人がイエス・キリストを主と受け入れるようになることが、どれほどの祝福を世にもたらすだろうかと語っている。
- これは大患難時代の終わりに起こり、そして千年王国が成就する。そこでは、大患難時代を生き抜いた不信仰なユダヤ人とその子孫がすべて救われ、イスラエルは全世界にとって、物理的にも、霊的にも大いなる祝福をもたらす国となる。アブラハム契約で約束されているとおりである。そして神は、キリストが座する千年王国でイスラエルと新しい契約に入る。

ローマ 11 : 15

「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう」

- この節では、3つの重要な真理が確認されている。第一に、この節を読めば、ユダヤ人が捨てられたのは一時的だとわかる。同じ節で、「彼らの受け入れられること」があるとも言われているからである。第二に、神は、ユダヤ人がイエスを拒絶したことを用いて、世界、つまり非ユダヤ人、異邦人をご自分と和解させたのだということがわかる。第三に、ユダヤ民族が自分たちの救い主を受け入れる時に、「死者の中から生き返る」、つまりイエス・キリストにある新しいいのちにあずかることがわかる。
- イスラエルがイエスを受け入れなかったのは、異邦人に救いをもたらすという神のご計画の一部だった。
- イスラエルは、異邦人に救いをもたらすため、神によってかたくなにされた。
- メシアのからだに入れられている異邦人には、救いに導くためにユダヤ人を「ねたみ」に駆り立てるといふ特別な任務が与えられている。

ローマ 11：16～18

「初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです」

- 問題となっているのは、「根」とはだれ、あるいは何かということである。これはアブラハム契約を指しており、そこから神が約束されたすべての祝福が湧き出るのである。この契約はイスラエル民族を通して与えられ、メシアであるイエシュアによって成就する。
- 不信仰なユダヤ人を擁護するパウロの議論が続く。不信仰なユダヤ人は折られた枝だが、神の聖なるオリーブの木から一時的に切り取られただけである。ここでパウロは、不信仰なユダヤ人に対して誇ってはいけないと異邦人クリスチャンに警告している。不信仰なユダヤ人は、異邦人信者がユダヤ人の聖いオリーブの木に接ぎ木されるために一時的な犠牲となっているためである。異邦人信者は、自分たちは根に支えられていることを決して忘れてはいけぬ。その根とは、神がイスラエルに対して、イスラエルを通して与えられた契約の約束のことである。
- ここで異邦人信者に対して言われていることは、イスラエルに対して傲慢になることなく、イスラエルを世界に贖いをもたらす神の器として認め、敬意をもって接する必要があるということである。

III. イサクに対する神の計画 — 未来**ローマ 11：22～24**

「見てごらん下さい。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わすことができるのです。もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずですよ」

- 23、24 節は、枝が切り落とされたのはほんの一時的なものであること、やがて神は不信仰なユダヤ人をすべてで自分の聖なるオリーブの木に、メシアであるイエシュアに対する信仰を通して接ぎ合わせることの証明になっている。

ローマ 11：25

「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたく

なになったのは異邦人の完成のなる時までであり」

- 神は、異邦人の完成がなる時までイスラエル人の大部分を盲目にされた。異邦人の完成とは、異邦人信者の数が満ちることを指す。つまり、イスラエルをみな救うという神の救いの計画の中では、まず救われる異邦人の数が満ち、その後にイスラエル全体が救いに導かれる。それは、大患難時代の終わりに、ユダヤ人たちが「自分たちが突き刺した者を仰ぎ見る」時に起こる。

ローマ 11：26～27

「こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である』」

- パウロはこの章の初めから、不信仰なユダヤ人を擁護する議論を力強く展開してきた。そして、ここに来て「イスラエルはみな救われる」とはっきりと断言している。
- 26節にあるとおり、「救う者」、つまりイスラエルのメシアであるイエス・キリストがシオンから出る（エルサレムに戻ってくる）。それが起こるのはイエス・キリストの再臨の時、そしてキリストが支配する栄光に満ちた千年王国が始まる。
- イエス・キリストは、神とイスラエルの契約を成就するために地上に戻ってこられる。その契約とは、アブラハム契約である。その契約によって、イスラエルはみな救われるという祝福を受けるのである。「イスラエルはみな」とは、その時点で生きているイスラエル全員という意味である（これまでに生まれてきたユダヤ人全員ではない）。

結論

- 神が約束をしたら、アブラハムと無条件契約を交わした時のように、必ず実行される。
- それ以来、いつの時代にもユダヤ民族の中にはメシアに忠実な信者の群れ、レムナントがいた。
- パウロは、「イスラエルはみな救われる」と論じ、そう教えている。
- メシアの初臨から今日まで、イスラエルの大半がメシアに対して目が閉ざされているのは、福音が異邦人の間で広められるためだった。それは、「異邦人の完成のなる時まで」で、福音があらゆる民族に宣べ伝えられるまで続く。
- メシアであるイエスを受け入れていない今のイスラエルの状態は、最終的なものではない。神はご自分の計画を選民の中で、選民を通して実現されるからである（11：25～32）。

「イシュマエルに対する神の計画」

過去、現在、未来

セツ・ポステル

I. イシュマエルに対する神の計画 — 過去

イシュマエルの物語に見る約束、離別、備え

イシュマエルに対する約束：昔から変わらない贖いの物語（創世記 16：1～16）

- アダムとエバ Part II
- イシュマエルの物語は、昔から変わらない堕落のストーリー：サラがハガルを取り、それを夫に与える（16：1～4。創3：6参照）。
- イシュマエルの物語は、昔から変わらない希望のストーリー：神が子孫の誕生と、その子孫に対する祝福を約束する（16：5～16、17：18～20。創3：15～16参照）。
- 神のイシュマエルに対する計画は、また別の物語のひとつコマではない。
- 神のイシュマエルに対する計画は、昔から変わらない「同じ物語」に基づいている。

離別：昔から変わらない舞台裏の物語（創世記 21：1～10）

- カインとアベル Part II
- イシュマエルの物語は、昔から変わらない葛藤のストーリー：イシュマエルの弟に対する敵意は、選ばれた者に対してだれもが抱く葛藤
- カインのアベルに対する葛藤（創4：5）
- ハムのセムとヤペテに対する葛藤（創9：22）
- ロトのアブラハムに対する葛藤（創13：6～9）
- エサウのヤコブに対する葛藤（創25：23）
- 兄弟たちのヨセフに対する葛藤（創37：2～5）
- イシュマエルの物語は、昔から変わらない離別のストーリー。最終的には祝福へとつながっていく（創50：20。創12：3、49：8参照）。

備え：昔から変わらない備えの物語（創世記 21：11～21）

- アケダ Part I、II（創世記 21 & 22 章）
- イシュマエルの「いけにえ」物語は、イサクの「いけにえ」の予型になっている。
- サラはアブラハムにイシュマエルを追い出すように求めた（21：10）。神はアブラハムにイサク

をささげるように求めた (22:1~2)。

- アブラハムは朝早く起きてイシュマエルを送り出した (21:14)。アブラハムは朝早く起きてイサクをささげに行った (22:3)。
- アブラハムはパンと水の革袋をハガルの背に負わせた (21:14)。アブラハムはたきぎをイサクの背に負わせた (22:6)。
- ハガルはイシュマエルを灌木の下に投げ出して死ぬに任せた (21:15)。アブラハムはイサクをたきぎの上に置いて死なせようとした (22:9)。
- 主の使いが天から聞きつけ、イシュマエルを救った (21:17)。主の使いが天から呼びかけ、イサクを救った (22:12)。
- 神はハガルの目を開き、水を与えた (21:19)。神はアブラハムの目を開き、子羊を与えた (22:13)。
- 神はイシュマエルの子孫を増やすと約束された (21:13、18)。神はイサクを祝福すると約束された (22:17)。

以上の物語から学ぶ3つの重要な教訓

1. アブラハムはイシュマエルのために嘆き、その将来のために祈った (創 17:18、21:15~16)。私たちも、アラブ人のために嘆き、その将来のために祈る必要がある。
2. アブラハムは、イシュマエルにも、イサクにも強い思い入れがあった (創 21:11、22:2)。私たちも、アラブ人にも、ユダヤ人にも強い思い入れを持つ必要がある。
3. ご自分の約束を果たすため、神はイシュマエルにも、イサクにも身代わりを用意された (創 21:19、22:13)。その約束があるので、神は今もユダヤ人とアラブ人のどちらにも身代わりを用意しておられる。

II. イシュマエルに対する神の計画 — 現在

「まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか。」(ヨナ4:11)

ヨナ書に学ぶ衝撃的な教訓：神はアラブ人を愛しておられる！

- なぜヨナは怒っていたのか。「ところが、このことはヨナを非常に不愉快にさせた。ヨナは怒って……」(4:1)
- 答え：「(ヨナは)【主】に祈って言った。『ああ、【主】よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわざを思い直

されることを知っていたからです』

- 神はイスラエルの敵を愛し、その罪を赦される。
- この話には、一読しただけではわからない意味が隠されている。

ニネベと金の子牛事件に見る神のあわれみ

ニネベでの赦し	シナイでの赦し
<p>「ヨナはその町に入って、まず一日目の道のりを歩き回って叫び、『もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる』と言った」(3:4)</p>	<p>「モーセはそこに、四十日四十夜、【主】とともにいた。彼はパンも食べず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことは、十のことは書きしるした」(出34:28)</p>
<p>「もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りをおさめ、私たちは滅びないですむかもしれない」(3:9)</p>	<p>「また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわいを思い直してください」(出32:12)</p>
<p>「神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった」(3:10)</p>	<p>「すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された」(出32:14)</p>
<p>「ところが、このことはヨナを非常に不愉快にさせた。ヨナは怒って、【主】に祈って言った。『ああ、【主】よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわいを思い直されることを知っていたからです』」(4:1~2)</p>	<p>「【主】は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。『【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。』モーセは急いで地にひざまずき、伏し拜んで、お願いした」(出34:6~9a)</p>

否定できない対応関係

- ニネベとイスラエル
- ヨナとモーセ
- あわれみ深く、恵み深い神は同じ。

これは何を意味するか

1. 神は、イスラエルの敵をイスラエルと同じように愛するだけでなく、その「ペット」も愛してお

られる。「まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか」(4:11)

2. ヨナの心はモーセのようではなかった。ましてや神とは比べることもできない。

神はガザを愛しておられる

- 「『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。だから、あなたがたは、天の父が完全のように、完全でありなさい」(マタ 5:43~48)
- 神は、ガザとその地の動物を愛しておられる。私たちはどうだろうか。
- モーセは、罪人のためにみずからの命を投げ出そうとした。ヨナは、神が罪人を赦すのでみずからの死を願った。私たちはモーセのようだろうか。それともヨナのようだろうか。
- 人々がアラブ人について語るショッキングな発言

ヨナ書に学ぶショッキングな教訓：神はイスラエルにねたみを起こさせるためにアラブ人を救っている

- ヨナ書は、ヨナがどのように応答したかを記すことなく終わっている(4:9~11。ルカ 15:27~32 参照)。
- どうしてヨナ書はこのような終わり方をしているのか。
- イスラエルの敵に対する神の愛は、イスラエルにねたみを起こさせるためである(申 32:21)。
- 預言者が語るたった5つの言葉にニネベの町が示した驚くべき反応(3:4) vs. 預言者の何万語という言葉に対するイスラエルの無反応(ヨナ 3:5~6 と、ヨエル 1:14、2:12~15 を比較せよ)。
- ヨナは、贖罪の日に行う真の悔い改めの例。
- 神がアラブ人に対して持つておられる現在の計画は、アラブ人を救い、イスラエルにねたみを起こさせること(ロマ 11:11)。
- エルサレム旧市街におけるジェイミーと私。

III. イシュマエルに対する神の計画 — 未来

「万軍の【主】は祝福して言われる。『わたしの民エジプト、わたしの手でつくったアッシリヤ、わたしのものがある民イスラエルに祝福があるように』」（イザヤ 19：25）

イザヤ書にその答えを探る — 諸国民に対する宣託（イザヤ 13～23 章）

イザヤの幻：諸国民が礼拝のためにエルサレムに上ってくる

- 「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて示された先見のことば。終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。『さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。』それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない」（2：1～4）
- 「『わたしは、彼らのわざと、思い計りとを知っている。わたしは、すべての国々と種族とを集めて来る。彼らは来て、わたしの栄光を見る。わたしは彼らの中にしるしを置き、彼らのうちののがれた者たちを諸国に遣わす。すなわち、タルシシュ、プル、弓を引く者ルデ、トバル、ヤワン、遠い島々に。これらはわたしのうわさを聞いたこともなく、わたしの栄光を見たこともない。彼らはわたしの栄光を諸国の民に告げ知らせよう。彼らは、すべての国々から、あなたがたの同胞をみな、【主】への贈り物として、馬、車、かご、騾馬、らくだに乗せて、わたしの聖なる山、エルサレムに連れて来る』と【主】は仰せられる。『それはちょうど、イスラエル人がささげ物をきよい器に入れて【主】の宮に携えて来るのと同じである。わたしは彼らの中からある者を選んで祭司とし、レビ人とする』と【主】は仰せられる。『わたしの造る新しい天と新しい地が、わたしの前にいつまでも続くように、——【主】の御告げ——あなたがたの子孫と、あなたがたの名もいつまでも続く。毎月の新月の祭りに、毎週の安息日に、すべての人が、わたしの前に礼拝に来る』と【主】は仰せられる。『彼らは出て行って、わたしにそむいた者たちのしかばねを見る。そのうじは死なず、その火も消えず、それはすべての人に、忌みきらわれる。』（66：18～24）

イザヤ書の政治的・霊的現実：諸国民がエルサレムに攻め上ってくる

- 「ウジヤの子のヨタムの子、ユダの王アハズの時のこと、アラムの王レツィンと、イスラエルの王レマルヤの子ペカが、エルサレムに上って来てこれを攻めたが、戦いに勝てなかった」（7：1）
- 「ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリヤの王セナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々を攻めて、これを取った。アッシリヤの王は、ラブ・シャケに大軍をつけて、ラキシユからエルサレムに、ヒゼキヤ王のところへ送った。ラブ・シャケは布さらしの野への大路にある上の池の水道

のそばに立った」(36:1~2)

イザヤが見た幻と、現在の政治的・靈的現実を踏まえて — 神のイシュマエルに対する計画とは何か

- イザヤが語った諸国民に対する古代の宣告(預言)に、現代の諸問題に対する解決法を探る(イザヤ13~23章)。
- 背景知識：
 - イスラエルに対する神の幻：イザヤ1~12章
 - 諸国民に対する神の幻：イザヤ13~23章
 - どちらも、メシアの来臨がもたらす裁きと祝福という似た幻であることに着目(イザ11:9~10、16:4~5参照)。
 - なぜか。それは、アブラハムの子孫を通して諸国民を祝福するという神の約束があるためである(創12:1~3)。

イザヤに見る2種類の「助言者」

- イザヤの輝かしい将来の預言と、イスラエルの厳しい政治的・靈的現実を踏まえて、神の幻はどのように実現するのか。
- イザヤ書にある「人のはかりごと」は無に帰する(イザ7:5、8:10、16:3、19:3、11~12)。
- イザヤ書にある「神のはかりごと」は成就する(イザ14:24~27、19:12、17、23:8~9)。
- なぜか。それは神だけが「すばらしい助言」を与えることのできる方だからである(イザ25:1、28:29。9:6参照)。

神がイシュマエルの将来に持っておられる計画は何か(イザヤ13~23章)

1. イスラエルの神は、怒りを下し、地上から罪人を取り除こうと決めておられる(13:9、14:20~23)。
2. イスラエルの神は、人間の奢りと誉れを断ち切ろうと決めておられる(13:11、14:11~17、16:6~14、21:16~17、23:7~9)。
3. イスラエルの神は、敵を打ち破ろうと決めておられる。それは、しいげられているご自分の民に安息を与え、離散の地から帰還できるようにするためである(14:1~8、14:25、17:12~14)。
4. イスラエルの神は、諸国民を集めてシオンとシオンに座すメシア的王を表敬訪問させ、貢物をささげさせようと決めておられる(16:1~5、18:7、23:17~18)。
5. イスラエルの神は、人々をご自分に引き寄せ、偶像から遠ざけようと決めておられる(17:7~8、19:1、16~25)。

(出典：Paul R. Raabe, "Look to the Holy One of Israel, All You Nations: The Oracles about the Nations

Still Speak Today“)

ショッキングだが、本当に起こること

- 「その日、イスラエルはエジプトとアッシリヤと並んで、第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。万軍の【主】は祝福して言われる。『わたしの民エジプト、わたしの手でつくったアッシリヤ、わたしのものである民イスラエルに祝福があるように』」（19：24～25）
- イスラエル最大の敵が、神の驚くべきみわざにより、「わたしの民」となり、「わたしの手でつくった」民となる。すべては神の栄光が永遠にたたえられるためになされる。

賛美

「輝け主の栄光」(リビングプレイズ 110)

愛の光 かがやき

暗闇を 照らしだす

わが主イエス 世の光

自由を与える ちから

いのちの みことば

輝け 主の栄光 地の上に

こころを 燃やしたまえ

あふれよ 主の恵み あわれみ

この地を 生かしたまえ

第5回 再臨待望聖会

タイムスケジュール

プレ大会

沖縄 (3/1)・名古屋 (3/8)・札幌会場 (3/15)

12:30 ~	開場		
13:00 ~ 14:30	聖会 I	本大会メッセージの要約	中川健一
14:30 ~ 15:00	休憩		
15:00 ~ 16:30	聖会 II	本大会メッセージの要約	中川健一

大阪会場 (3/19)

9:30 ~	開場		
10:00 ~ 11:15	聖会 I	特別講師メッセージ	特別講師、中川健一
11:15 ~ 11:30	休憩		
11:30 ~ 13:00	聖会 II	特別講師メッセージ	特別講師、中川健一

本大会

東京会場 (3/21)

9:30 ~	開場		
10:00 ~ 11:30	聖会 I	過去：アブラハムの選び、イシュマエルの選び	特別講師、中川健一
11:30 ~ 13:00	聖会 II	現在：ユダヤ人伝道、アラブ人信者の弟子訓練	特別講師、中川健一
13:00 ~ 14:00	休憩		
14:00 ~ 15:30	聖会 III	未来：ユダヤ人のための計画、アラブ人のための計画	特別講師、中川健一
15:30 ~ 17:00	聖会 IV	総まとめ	特別講師、中川健一

ポスト大会

ロサンゼルス (6/1)

14:00 ~	開場		
14:30 ~ 16:00	聖会 I	本大会メッセージの要約	中川健一
16:00 ~ 16:15	休憩		
16:15 ~ 17:30	聖会 II	本大会メッセージの要約	中川健一